

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 03-091022

(43)Date of publication of application : 16.04.1991

(51)Int.Cl.

G06F 3/06

G06F 13/14

(21)Application number : 01-229001

(71)Applicant : FUJITSU LTD

(22)Date of filing : 04.09.1989

(72)Inventor : KOMADA SATOSHI

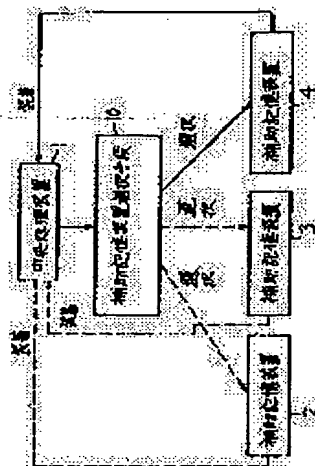
(54) METHOD FOR SELECTING AUXILIARY STORAGE DEVICE

BEST AVAILABLE COPY

(57)Abstract:

PURPOSE: To eliminate the need for depressing a key coded for an auxiliary storage device by making a central processing unit select a transited auxiliary storage device with an auxiliary storage device selecting means by using the transition from a state where a storage medium is not loaded to an auxiliary storage device to a state where it is loaded as a trigger.

CONSTITUTION: At a computer system which uses the auxiliary storage device selected from plural auxiliary storage devices 2-4, a central processing unit 1 selects a transited auxiliary storage device with an auxiliary storage device selecting means 10, by using the transition from a state where the storage medium is not loaded to the auxiliary storage device to a state where it is loaded as a trigger. Thus, when an auxiliary storage device desired to be used for edition, for example, the auxiliary storage device 4, is mounted to a storage medium, the central processing unit 1 can select the mounted auxiliary storage device at the auxiliary storage device selecting means 10 by the trigger from the mounted auxiliary storage device without depressing a numeral key 4 coded for corresponding auxiliary storage device 4.



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平3-91022

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)4月16日

G 06 F 3/06
13/14

3 0 1 A
3 1 0 K

6711-5B
7218-5B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 補助記憶装置選択方法

⑯ 特 願 平1-229001

⑰ 出 願 平1(1989)9月4日

⑱ 発 明 者 駒 田 聡 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社
内

⑲ 出 願 人 富士通株式会社 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

⑳ 代 理 人 弁理士 井 桁 貞一

明 細 書

1 発明の名称

補助記憶装置選択方法

2 特許請求の範囲

複数の補助記憶装置(2, 3, 4, ...)より
選択した補助記憶装置を用いるコンピュータシ
ステムにおいて、

中央処理装置(1)は、補助記憶装置選択手段
(10)により、補助記憶装置に記憶媒体が装着
されていない状態から装着された状態に遷移した
ことをトリガとし、遷移した補助記憶装置を選択
するようにしたことを特徴とする補助記憶装置選
択方法。

3 発明の詳細な説明

(概 要)

複数の補助記憶装置を有するコンピュータシ
ステムの補助記憶装置選択方法に関し、

使用したい補助記憶装置に記憶媒体を装着すれ

ば、該補助記憶装置を示す符号の打鍵をしなくとも
これが選択出来る補助記憶装置選択方法の提供
を目的とし、

中央処理装置は、補助記憶装置選択手段により、
補助記憶装置に記憶媒体が装着されていない状態
から装着された状態に遷移したことをトリガとし、
遷移した補助記憶装置を選択するように構成する。

(産業上の利用分野)

本発明は、複数の補助記憶装置(例えばフロッ
ピディスク装置)を使用するパーソナルコンピ
ュータやワードプロセッサ等のコンピュータシ
ステムにおける補助記憶装置選択方法の改良に関す
る。

第4図は1例のワードプロセッサの要部の構成
を示すブロック図であり、本体内補助記憶装置2、
3は例えば5 1/4"のフロッピディスク(以下ディス
クと称す)を装着するもので、増設補助記憶装置
4は3. 5"のディスクを装着するもので、表示
装置11はメニュー画面や編集(作成又は更新)

の内容等を表示するもので、キーボード12は数字キーや実行キー等を有し、これ等を打鍵して中央処理装置1に知らせるものであり、ROM14はプログラム等を格納しているものであり、13はRAMである。

このように複数の補助記憶装置2, 3, 4を有するコンピュータシステムの場合、使用したい補助記憶装置に記憶媒体を装着し、これを選択するキーボード12による打鍵を忘れても該補助記憶装置が選択されることが望ましい。

〔従来の技術〕

従来、第4図の補助記憶装置2, 3, 4の内、編集の対称として例えば補助記憶装置4を選択する場合は、補助記憶装置4にディスクを装着し、キーボード12にて、該当する補助記憶装置4を示す符号の数字キー4を打鍵することで行っている。

より、補助記憶装置に記憶媒体が装着されていない状態から装着された状態に遷移したことをトリガとし、遷移した補助記憶装置を選択するようにする。

〔作用〕

本発明によれば、編集の為に使用したい、例えば補助記憶装置4に記憶媒体を装着すると、該当する補助記憶装置4を示す符号の数字キー4を打鍵しなくとも、中央処理装置1は、装着した補助記憶装置よりのトリガにより、補助記憶装置選択手段10にて、装着した補助記憶装置を選択するので、意図とは別の補助記憶装置3が選択されたり、補助記憶装置3にディスクが装着されていない場合、ディスクが装着されていない旨のエラーが表示されることはない。

〔実施例〕

第2図は本発明の実施例の補助記憶装置選択プログラムのフローチャート、第3図は本発明の実

(発明が解決しようとする課題)

しかしながら、打鍵を忘れて、編集の為に、作成又は更新の実行キーを打鍵すると、予め指定された数字(あるいはシステム立ち上げ時のデフォルト値)例えば3により意図とは別の補助記憶装置3が選択されたり、補助記憶装置3にディスクが装着されていないならば、ディスクが装着されていない旨のエラー表示が表示装置11に表示され、不都合が生ずる問題点がある。

本発明は、使用したい補助記憶装置に記憶媒体を装着すれば、該補助記憶装置を示す符号の打鍵をしなくともこれが選択出来る補助記憶装置選択方法の提供を目的としている。

〔課題を解決するための手段〕

第1図は本発明の原理ブロック図である。

第1図に示す如く、複数の補助記憶装置2, 3, 4, ...より選択した補助記憶装置を用いるコンピュータシステムにおいて、中央処理装置1は、補助記憶装置選択手段10に

施例のメニュー面の変化を示す図である。

第2図の補助記憶装置選択プログラムは第4図のROM14に格納しておき中央処理装置1がこれを使用して処理を行い、第3図のメニュー面は第4図の表示装置11に表示されるものである。

又電源投入時又はリセット時のデフォルト値は3であるとし、第4図のRAM13には補助記憶装置選択符号記憶領域(以下DSAと称す)が設けてあるとし、以下第2図に従って、補助記憶装置選択方法につき説明する。

電源投入時又はリセット時は、ステップ1にて、DSAにデフォルト値3が設定され、ステップ2に進む。

ステップ2では、ディスクが装着されると、装着された補助記憶装置のレディ信号が0から1に変化しステップ3に進み、ステップ3ではディスクが装着された補助記憶装置に応じ、ステップ4, 5, 6にて装着された補助記憶装置の符号をDSAに設定しステップ7に進む。

例えば、ディスクが補助記憶装置4に装着され

れば、補助記憶装置4のレディ信号が0から1に変化し、ステップ6にて、DSAに4が書き込まれる。

又ディスクが補助記憶装置3に装着されており、次に補助記憶装置4にディスクが装着された時は、後で装着した方の符号4がDSAに書き込まれる。

ステップ7にて、キーボード12にて数字キーが押されていないければ、ステップ10に進む。

ステップ10では、DSAの値を表示装置11に表示しステップ12に進む。

表示装置11への表示を説明すると、第3図(A)に示す如く、選択する補助記憶装置の符号を表示する領域には、デフォルト値3が表示されていたものが、ディスクを補助記憶装置4に装着すると、(B)に示す如く、4に変更表示される。

操作者は、これを確認してから、ステップ11にて、キーボード12の実行キーを押すと、ステップ12に進み、ステップ12では、DSAの値が2ならばステップ13にて補助記憶装置2を読み出し、DSAの値が3ならばステップ14に

て補助記憶装置3を読み出し、DSAの値が4ならばステップ15にて補助記憶装置4を読み出し、ステップ16に進み、編集作業を開始することになる。

尚、ディスクを装着した補助記憶装置の選択を手動により変更する時は、変更したい補助記憶装置の符号をキーボード12にて押すと、ステップ7より、ステップ8に進み、ステップ8にて、押された符号が補助記憶装置の符号の2、3、4でなければ、ステップ10に進み、2、3、4であれば、ステップ9に進み、DSAを押された値とし、ステップ10に進み、以下先に説明したと同様の動作をする。

従って、手動により、補助記憶装置の選択変更も出来る。

(発明の効果)

以上詳細に説明せる如く本発明によれば、使用したい補助記憶装置に記憶媒体を装着し、これを選択するキーボード12による打鍵を忘れても、

誤動作することなく、意図する補助記憶装置が選択される効果がある。

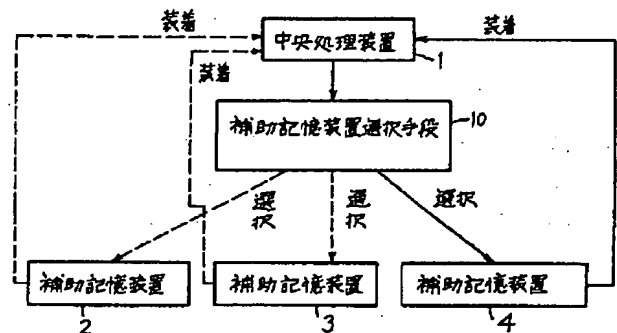
4 図面の簡単な説明

第1図は本発明の原理ブロック図、
第2図は本発明の実施例の補助記憶装置選択プログラムのフローチャート、
第3図は本発明の実施例のメニュー面の変化を示す図、
第4図は1例のワードプロセッサの要部の構成を示すブロック図である。

図において、

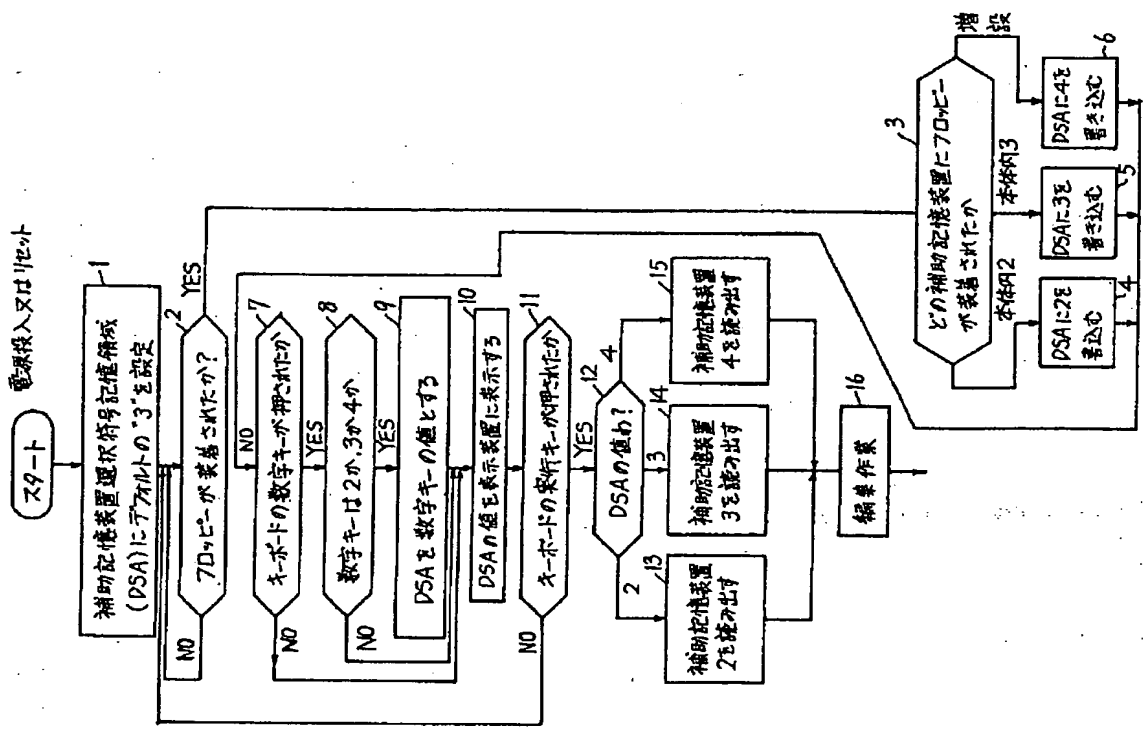
- 1は中央処理装置、
- 2、3、4は補助記憶装置、
- 10は補助記憶装置選択手段、
- 11は表示装置、
- 12はキーボード、
- 13はRAM、
- 14はROMを示す。

代理人 弁理士 井 桁 貞



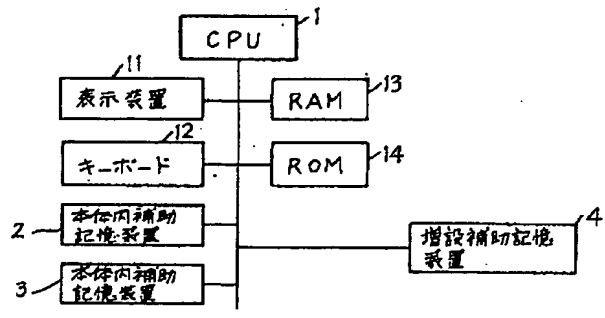
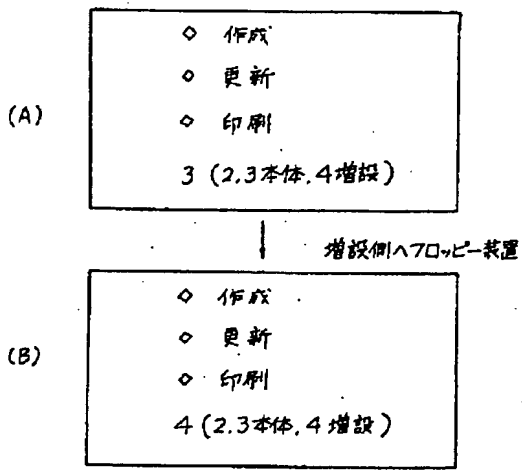
本発明の原理ブロック図

第1図



本発明の実施例の補助記憶装置選択プログラムのフローチャート

第 2 図



1例のワードプロセッサの主要部の構成を示すブロック図

第 4 図

本発明の実施例のメニュー面の変化を示す図

第 3 図